

Baton



岩手県立宮古病院
地域医療連携室広報誌

令和6年8月号

新任のご挨拶

事務局長 佐藤 明



令和6年度定期人事異動で岩手県立胆沢病院から異動してきます、事務局長の佐藤明と申します。

私自身の宮古病院勤務は今回2回目となります。前は東日本大震災の直後の4月1日から総務課長として赴任し3年間勤務しました。

人や建物の被害等、当時の大変な状況はずっと頭の中に残っていて、最後の勤務地は絶対宮古にしたい、宮古地域に貢献したいと願って、人事異動を強く希望し幸運にも希望が叶い、とてもうれしく思っています。

さて、宮古病院は平成29年度から6年連続で黒字を計上してきましたが、コロナ禍を経て患者数の減少、呼吸器内科と糖尿病代謝内科の常勤医退職、さらに新型コロナ関連の補助金の終了等もあり、令和5年度は3億4千万円余の赤字を計上しました。

これは当院だけではなく、長年黒字を計上してきた県立中央病院も21年ぶりの赤字となる等、県立病院全体で経営が厳しさを増しています。

今後、人口減少が進み、患者数は大きく伸びることは無いと思われま。しかし、当院では救急患者数、救急車搬入件数は令和2年度を底に毎年増加しております。

今後も、紹介・逆紹介を通して地域の医療機関との連携をより強化するとともに、救急や高度・専門医療を継続して提供できるように、そして安定した経営を継続できるように、院長をサポートし、病院運営に当たっていきいたいと思います。

最後になりますが、当院は平成4年に移転新築後32年を経過しており、そのため各種設備等の劣化が著しく、大規模改修工事を予定しております。

その準備のために、今年度1つの病棟を閉鎖しました。工事の進捗に合わせ、他の病棟も順次閉鎖と再開を繰り返し工事を完了する予定です。

現在、岩手県医療局本庁において入札、契約の手続きを進めておりますが、昨今の資材高騰や工事業者の人員確保困難等も相まって手続きが遅れております。

関係者の皆様にはご心配、ご迷惑をお掛けしており大変申し訳ありません。岩手県医療局本庁と協力し、早期着工と円滑な施工に向けて職員一同頑張っております。



つばめ

1号



はじめに

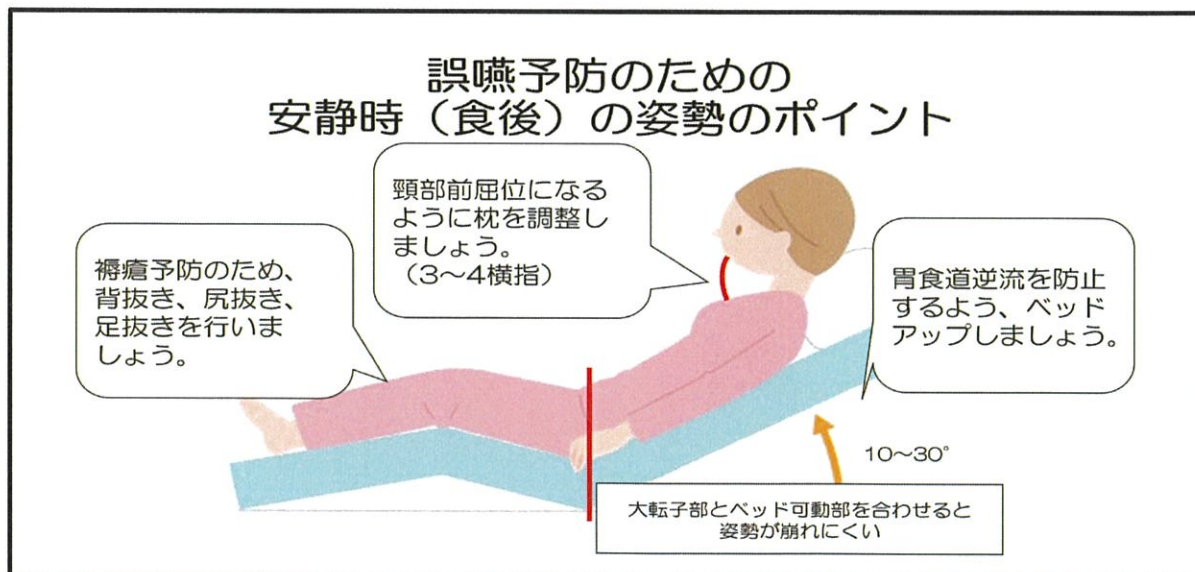
宮古地域の皆様と摂食嚥下について情報共有できるよう、摂食嚥下だより「つばめ」を発行いたしました。「つばめ」は、swallowに由来し、動詞で「飲み込む」、名詞で「つばめ:燕」を意味します。令和6年度も、宮古地域の皆様とともに多くの方が安全に口からおいしく食べられるよう活動してまいります。よろしくお願いいたします。



食べる、飲みこみの困りごとに対応します

摂食嚥下障害とは、食事を飲みこむ一連の動作に障害が起きている状態です。早期から気づいて、対策やリハビリ・ケアを行うことが重要です。以下のようなことなどがありましたら、当院地域連携室(0193-62-4011)へご相談ください。

むせる	飲みこみづらい	のどがごろごろする
痰が出る	咳こむ	肺炎で入院
のどに	早食い かきこみ すすり食べ かまずに飲みこむ (窒息リスク)	食事に30分以上かかる
食事量が減った		食べ物が口から
体重が減った		口腔内汚染や トラブルがある





つばめ 2号



食べるために適した環境をつくりましょう

摂食嚥下障害の患者さんには食事を始める前から環境を整えることが安全においしく食べることにつながります。

口腔ケアをしましょう

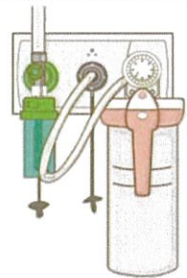
手・顔を清潔にしましょう

吸引器、パルスオキシメータなど誤嚥・窒息予防と早期対処の準備をしましょう

トイレ誘導、おむつ交換を済ませましょう

余分な情報を遮断しましょう
患者に応じて、カーテンを引いたり、テレビやラジオを消して静かに食事に集中できるようにする

食事を意識してもらう
食事を患者さんの正面に置く
おしながきを説明する



食事介助前の情報収集と観察をしましょう

食事介助前は実施依頼があった場合でも、自らカルテからの情報収集を行い、全身状態の変化がないか確認しましょう。食事開始前には、発熱がないか、呼吸状態の変化がないか、覚醒しているか、観察し食事開始のアセスメントを行いましょう。

